

景気見通し調査結果報告書

調査期間 平成 29 年 9 月

小 松 商 工 会 議 所

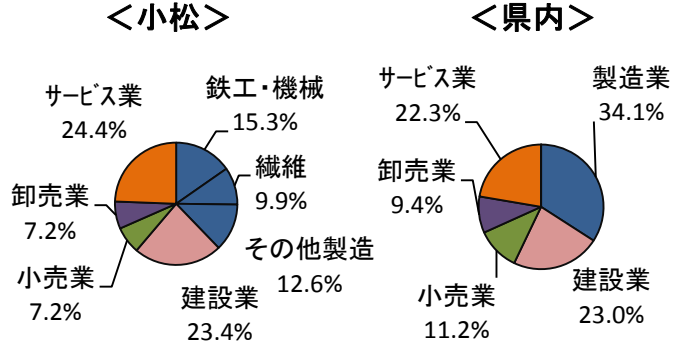
中 小 企 業 相 談 所

【調査対象】

小松商工会議所 議員・評議員企業 214社

回収率 111企業（回収率 51.9%）

業種	小松	県内
鉄工・機械	17	159
繊維	11	
その他製造	14	
建設業	26	107
小売業	8	52
卸売業	8	44
サービス業(運輸含む)	27	104
合計	111	466



景況・業況の動向

【主要な表現について】

※業況判断 …… 調査対象企業が自らの業績に下した判断

※DI 値 ……DI (デフュージョン・インデックス)とは企業の景況感を示す指数
「好転」の割合から「悪化」の割合を差し引いた値(無回答を除く)

※前 期 ……平成 29 年度第 1 四半期(平成 29 年 4 月～6 月)

今 期 ……平成 29 年度第 2 四半期(平成 29 年 7 月～9 月、但し 9 月は見込み)

来 期 ……平成 29 年度第 3 四半期(平成 29 年 10 月～12 月)

【各項目別の DI 値の意味について】

- (1)景 況 感……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (2)売 上 高……………DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- (3)売上単価……………DI 値がプラスなら「上昇」を、マイナスなら「低下」を表す。
- (4)資金繰り……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (5)採算性(経常利益) ……DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。

(1)-1 貴企業の景況感

(単位:社)

	鉄工・機械		繊維		その他製造		建設業		小売業		卸売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
好 調	6	4		1	5	0	5	1	1	0	1	2	4	2
不 変	10	11	8	6	7	11	18	21	4	6	5	3	16	21
悪 化	1	2	3	4	2	3	3	3	3	2	2	3	7	4
無回答								1						
総 計	17		11		14		26		8		8		27	

Q「景況・業況の動向」の項目における「景況感判断」に関する理由

===景況感(今期)の選定理由===

①好転

従来加工品の量が増えたため（製造業）
取引先増産のため（製造業）
受注増（製造業）
当社主力建機各社、今期好調維持（製造業）
顧客の建築物件増（製造業）
受注が増加しているが、材料も高くなっている（製造業）
若干の売上増があったことと、それ程大きな波がなく、底堅い需要があると感じられる（製造業）
外部環境浮上（製造業）
季節要因による（製造業）
顧客からの引き合や見積依頼が件数・金額とも増（建設業）
前期が悪かった為（建設業）
大手企業の出店による影響大（小売業）
新車販売の増加（サービス業）
建設機械関係の物流が増加傾向にある（サービス業）
引き続きオリンピック特需が旺盛である（サービス業）
小松地区の製造業の方々の収入アップのため、購買意欲が増えている為（サービス業）

②不変

生産量に大きな変動がなかったため、横ばい（製造業）
客先各社、極端な増減なく安定している（製造業）
受注安定のため（製造業）
客先の生産予定通りとなった（製造業）
排ガス規制等による建設機械需要拡大（製造業）
内需不振（製造業）
J.BUS バスの増産が平常に戻る（製造業）
例年になく受注が減少している（製造業）
今期はまだ良いが来期は大変（製造業）
国内消費が低迷により売上減少、可処分所得減少による景気低迷は深刻（製造業）
客先の計画不安定（製造業）
建機の排ガス規制に対する作り込みがあったため忙しい。しかし急激な増産のための人件費を増加させたため、採算性は悪化（製造業）
新幹線による仮設工事が多くなった（建設業）
官公庁工事の発注状況に特に変わりなし（建設業）
公共工事の受注の減少（建設業）
小松市の公共工事減がある(昨年と比較)（建設業）
人がいない、高齢化（建設業）
現在の環境は個別企業としては悪くないが、価格極めて安価で楽でない（建設業）
売上高はのびているが、特に景気が好転しているとは、思わない（建設業）
毎月の試算表などの推移がよい（建設業）
大型店の出店、天候不良による仕入れ量の少なさ（小売業）
家庭消費支出額が増えていないから（小売業）
リピート客が減少しているが、新製品でカバーしている（小売業）

県外資本スーパーが増え、本部仕入れが増えてきている（卸売業）
原油価格の安定、仕入先(元売)のルール変更（小売・卸売・サービス業）
福祉・介護の業種であり、利用者のニーズは変わっていない（サービス業）
夏休み期間中は天候不順等によるキャンセル等で、マイナス面があった（サービス業）
割と安定している（サービス業）
夏場は毎年6～9月まで売上悪化（サービス業）
市場金利は低いまま、厳しい状況が続いている（）サービス業
前年比と契約数の変化が見られない（サービス業）
同業者の多すぎ（サービス業）
業界動向に大きな影響を与える要素がない（サービス業）

③悪化

オリンピック特需も一服した折、バス需要の減により、業績は下降ぎみ（製造業）
全国的、地域的にも屋根材の瓦使用率が減少しているため（製造業）
消費の落ち込み、販路が苦しい（製造業）
主力の観光バス受注減（製造業）
今期は、前期の受注が厳しかったので（建設業）
大型店進出（小売業）
仕入単価の上昇につき、利益単価の減少（小売業）
昨年同時期との比較にて判断（小売業）
景況感は悪いが、大口取引先ができた（小売・卸売業）
枝肉の高騰（卸売業）
会社の何かが悪かった（サービス業）
前期より、落ちた（サービス業）
公共工事の減少（サービス業）
売上高の減少傾向が出てきた。関与先の業況が悪化している（サービス業）

===景況感(来期)の選定理由===

①好転

外部環境浮上（製造業）
客先の増産計画の確定（製造業）
受注増（製造業）
受注した物件を上棟して、完成引き渡しして、前期より好転（建設業）
得意先に、新規店舗が増えた（卸売業）
忘年会等があり、毎年そんな感じです（サービス業）
小松地区の製造業の方々の収入アップのため、購買意欲が増えている理由で期待できる (サービス業)

②不変

国内需要減少見込む（製造業）
輸出品がある為、為替の安定（製造業）
今期とそれほど大きな違いが出る事はないだろうと思われる（製造業）
このままの受注で推移しているものと思う（製造業）
中国経済復調によるインフラ整備が期待でき、結果建機は好景気が続くと考えられる（製造業）
客先各社、極端な増減なく安定している（製造業）

特別景況感が平常と成る（製造業）
生産計画が横ばい予想になっているため（製造業）
来期も状況は変わらず。これだけ所得が低迷しては、現状打開は難しいと思う（製造業）
何とか好転するように願っている（製造業）
為替が安定。110～115 安、やや好転する（製造業）
主力の観光バス受注減（製造業）
客先からの増産となっている（製造業）
季節要因による（製造業）
元請けがない（建設業）
例年通り、あまり変化はない（建設業）
公共工事発注量の減少（建設業）
先行き不透明（建設業）
世界情勢が不安定な中、国内景気においても変動がある（建設業）
不透明な部分はあるものの、それ程変化はないと思われる（建設業）
家庭消費支出額の増加が見込めないから（小売業）
リピート客が減少しているが、新製品でカバーしている（小売業）
大手企業の出店による影響大（小売業）
個人消費がない。企業の金使いが少ない（小売業）
今年度と然程大きく変わらない。変わる要素がない（小売業）
枝肉の高騰（卸売業）
建機生産堅調だが上期より減少、バス生産、急ブレーキかかる（卸売業）
需要低迷による価格競争の激化、大手の進出（小売・卸売・サービス業）
引き続き福祉・介護のニーズは変わらないものと見込める（サービス業）
相場の変動に左右され予測し難い（サービス業）
秋の行楽シーズンである事から、観光バス(ツアー含む)の収入増がある（サービス業）
売上は増加するが、車両の手配が不足気味で収益は悪化する。今後の単位交渉が厳しい (サービス業)
競合との競争激化、マーケット・消費者の動向をよむのが難しい（サービス業）
このままで行くだろうと予測（サービス業）
市場金利は低いまま変化はないと思う（サービス業）
先行き不透明（製造業・サービス業）
業界動向に大きな影響を与える要素がない（サービス業）
中国経済復調によるインフラ整備が期待でき、結果建機は好景気が続くと考えられる(製造業)

③悪化

内需不振（製造業）
今期に対し、更に下がる見込（製造業）
取引先減産のため（製造業）
9月より需要減のきざしあり（製造業）
建機が落ち着き、他の仕事を取り入れる予定であるが、一度に多くを受注出来ないため(製造業)
全国的、地域的にも屋根材の瓦使用率が減少しているため（製造業）
最低賃金2年連続の大幅値上げ。最悪になる（製造業）
原材料の値上げが商品の値上げに結びつかない（製造業）
消費の低下（製造業）
自社事務所移転等で入札に全然参加できていない（建設業）

大型店進出（小売業）
見通し悪く不明（小売業）
景況感は悪いが、特別な事情で売上UP（小売・卸売業）
大型店への売上は増えているが、中小スーパー及び小売店の売上はやや減少。少子高齢による消費量の減少（卸売業）
国際情勢（卸売業）
地方活況は、中央資本によるものばかり（サービス業）
現状より売上高は減少。取引先の廃業、事業縮小（サービス業）

(1)-2 DI値

(単位: DI)

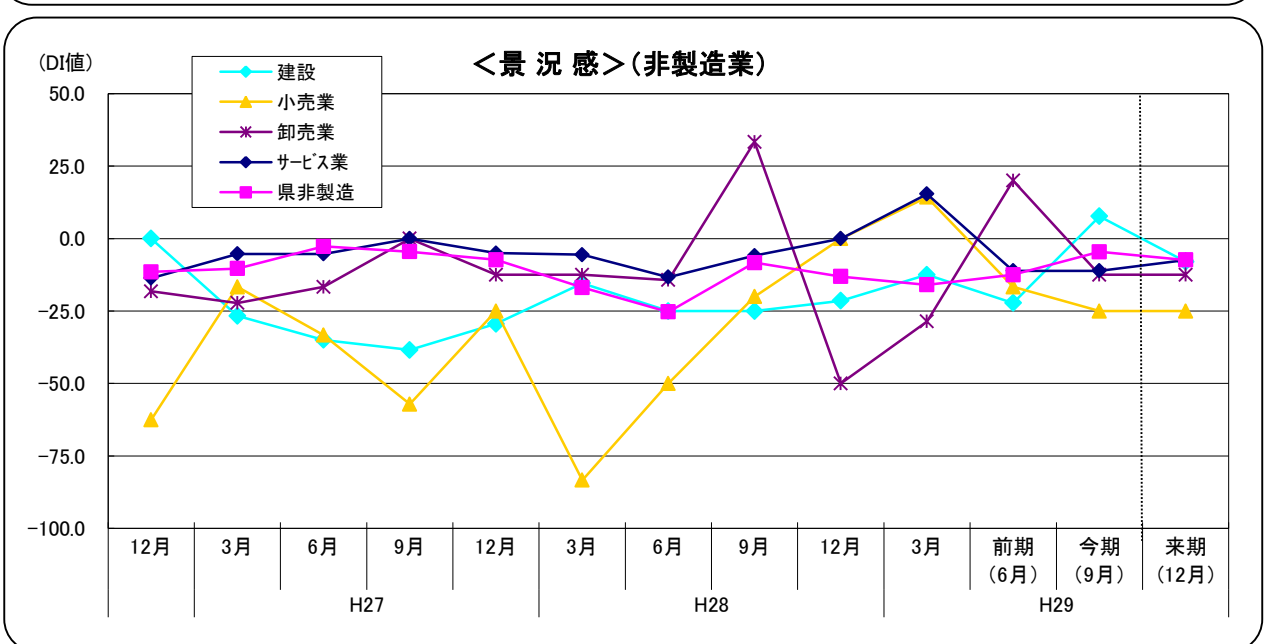
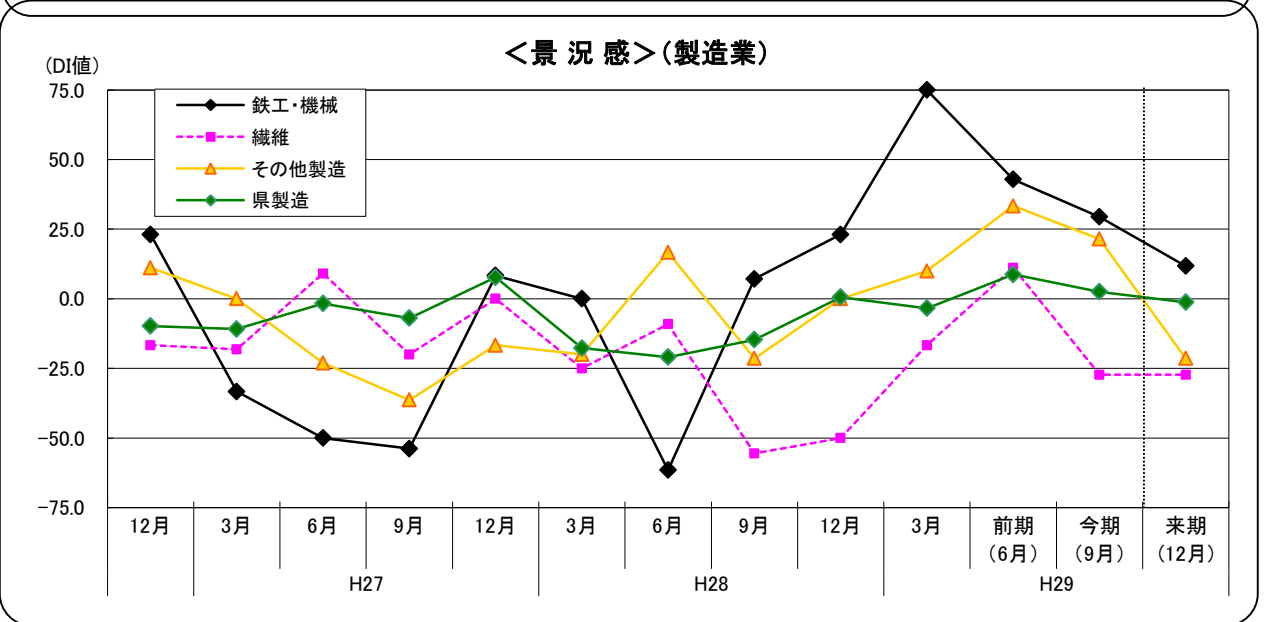
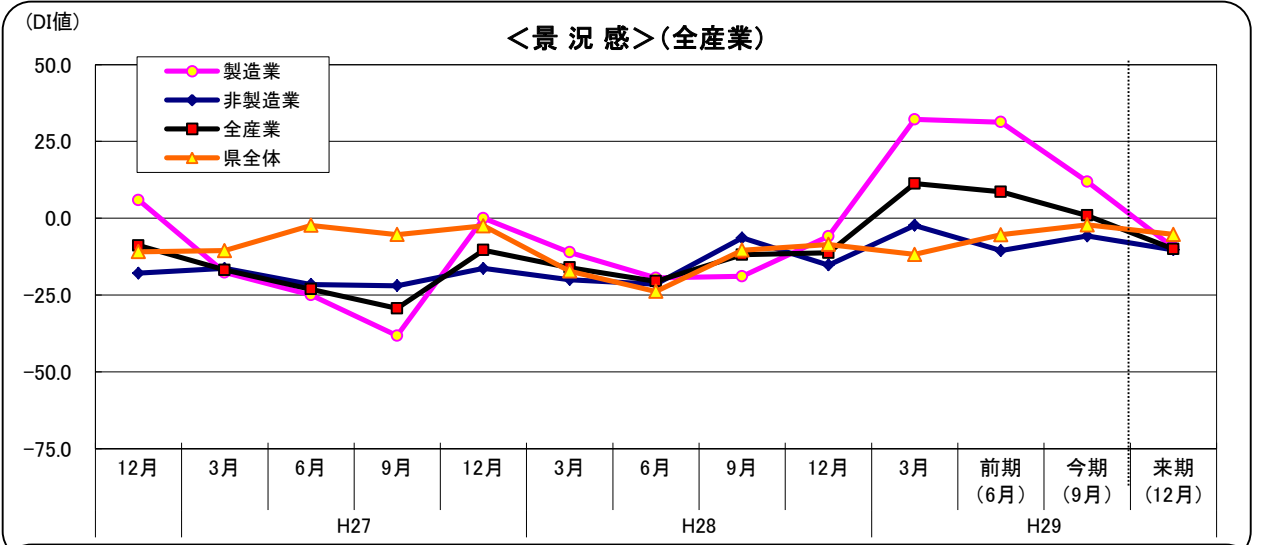
		前 期		今 期		来 期	
		小松	県内	小松	県内	小松	県内
製造業	鉄工・機械	42.9	—	29.4	—	11.8	—
	繊維	11.1	—	▲ 27.3	—	▲ 27.3	—
	その他製造	33.3	—	21.4	—	▲ 21.4	—
	製造計	31.3	8.7	11.9	2.5	▲ 9.5	▲ 1.3
非製造業	建設業	▲ 22.2	▲ 9.9	7.7	1.9	▲ 8.0	▲ 10.8
	小売業	▲ 16.7	▲ 23.1	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 15.7
	卸売業	20.0	▲ 12.2	▲ 12.5	▲ 4.5	▲ 12.5	0.0
	サービス業(運輸含む)	▲ 11.1	▲ 9.8	▲ 11.1	▲ 4.8	▲ 7.4	▲ 3.0
	非製造計	▲ 10.5	▲ 12.5	▲ 5.8	▲ 4.6	▲ 10.3	▲ 7.4
全 体		8.6	▲ 5.4	0.9	▲ 2.2	▲ 10.0	▲ 5.3
改善予測		▲ 20.5	2.9	▲ 10.9	▲ 3.1	—	—

※改善予測（「来期」見通しから「今期」を差し引いた値、プラスの場合は今期より来期の方が上昇するという予測）

製造業については、鉄工・機械では前期 42.9 ポイントだったが、今期は 29.4 ポイントと悪化、更に来期は 11.8 ポイントと悪化の見通しを示している。繊維においては前期が 11.1 ポイントであったが、今期は▲27.3 ポイントと悪化となり、来期は▲27.3 ポイントと横ばい傾向を示している。その他製造業においては、前期 33.3 ポイントから今期は 21.4 ポイントやや悪化傾向となり、来期は更に悪化の見込みであることが伺える。

非製造業については、建設業が前期▲22.2 ポイントから今期 7.7 ポイントと若干回復傾向であり、来期は▲8.0 ポイントと低下予測が伺える。小売については今期▲25.0 ポイントと悪化、来期は横ばいの見通し、卸売は前期より悪化傾向となっており、来期も横ばいの見込み、サービス業は▲11.1 ポイントと横ばい傾向となっており、来期は若干回復の見込みであり、まだ総じて依然厳しい状況が続いていることが伺える。

(1)-3 年代別の推移



(単位:DI)

区分	今期(H29.9)			来期(H29.12)			備考
	小松地区	北陸三県	全国	小松地区	北陸三県	全国	
製造業	11.9	17	15	▲ 9.5	▲ 13	▲ 12	42社
非製造業	▲ 5.8	3	14	▲ 10.3	▲ 0	▲ 10	69社
全体	0.9	9	15	▲ 10.0	▲ 6	▲ 11	111社

※北陸三県並びに全国の数値は 日銀金沢支店・短観(全国企業短期経済観測調査)より

(2) - (5) 売上高、売上単価、資金繰り、採算性(経常利益) DI一覧表

今期(H29年度第2四半期)の状況

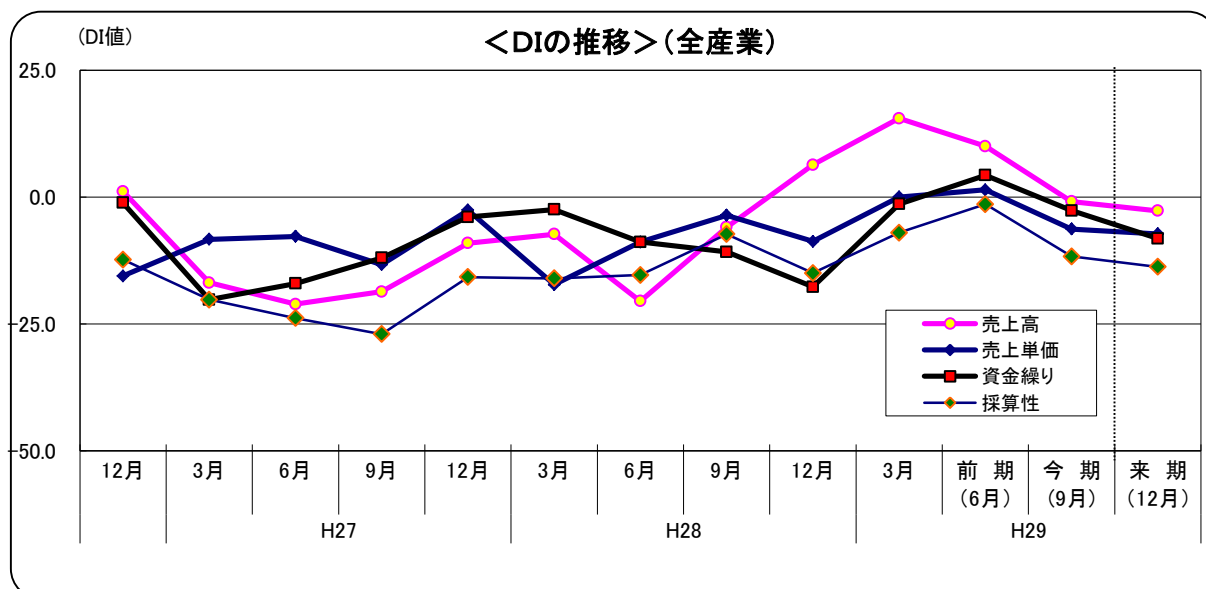
(単位:DI)

業種	売上高		売上単価		資金繰り		採算性	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内	小松	県内
製造業	11.9	1.3	2.4	▲ 6.9	0.0	▲ 1.9	▲ 2.4	▲ 10.1
建設業	0.0	0.9	▲ 11.5	▲ 9.3	▲ 7.7	▲ 6.5	▲ 19.2	▲ 12.1
小売業	▲ 50.0	▲ 23.1	12.5	1.9	▲ 12.5	▲ 7.8	▲ 37.5	▲ 33.3
卸売業	25.0	0.0	▲ 12.5	4.8	12.5	4.5	▲ 12.5	▲ 9.3
サービス業	▲ 14.8	▲ 2.0	▲ 18.5	▲ 3.9	▲ 3.7	▲ 2.9	▲ 11.1	▲ 10.7
全体	▲ 0.9	▲ 2.4	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 2.7	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 13.2

来期(H29年度第3四半期)の見通

(単位:DI)

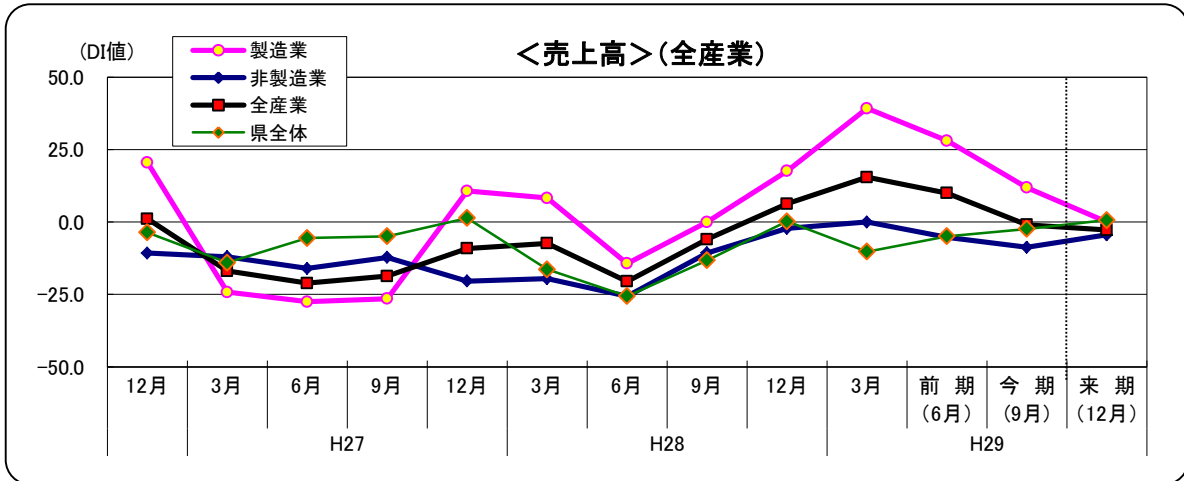
業種	売上高		売上単価		資金繰り		採算性	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内	小松	県内
製造業	0.0	7.6	▲ 7.1	▲ 4.5	▲ 4.8	1.9	▲ 11.9	▲ 9.7
建設業	▲ 4.0	▲ 11.8	▲ 4.0	▲ 7.8	▲ 8.0	▲ 2.9	▲ 16.7	▲ 13.9
小売業	▲ 37.5	▲ 9.6	0.0	▲ 3.8	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 25.0	▲ 9.8
卸売業	12.5	13.6	▲ 25.0	0.0	12.5	0.0	▲ 12.5	▲ 4.7
サービス業	0.0	2.0	▲ 7.4	0.0	▲ 14.8	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 6.1
全体	▲ 2.7	0.7	▲ 7.3	▲ 3.8	▲ 8.2	▲ 2.2	▲ 13.8	▲ 9.4
改善予測 (今回)	▲ 1.8	3.0	▲ 1.0	1.0	▲ 5.5	1.0	▲ 2.1	3.8
改善予測 (H29.6)	▲ 16.0	1.7	▲ 4.4	▲ 0.1	▲ 11.9	▲ 1.9	▲ 10.7	3.1
改善予測 (H29.3)	▲ 28.0	▲ 10.5	1.4	▲ 5.1	▲ 6.9	▲ 2.0	▲ 4.1	▲ 2.7



(2) 売上高

(単位:DI)

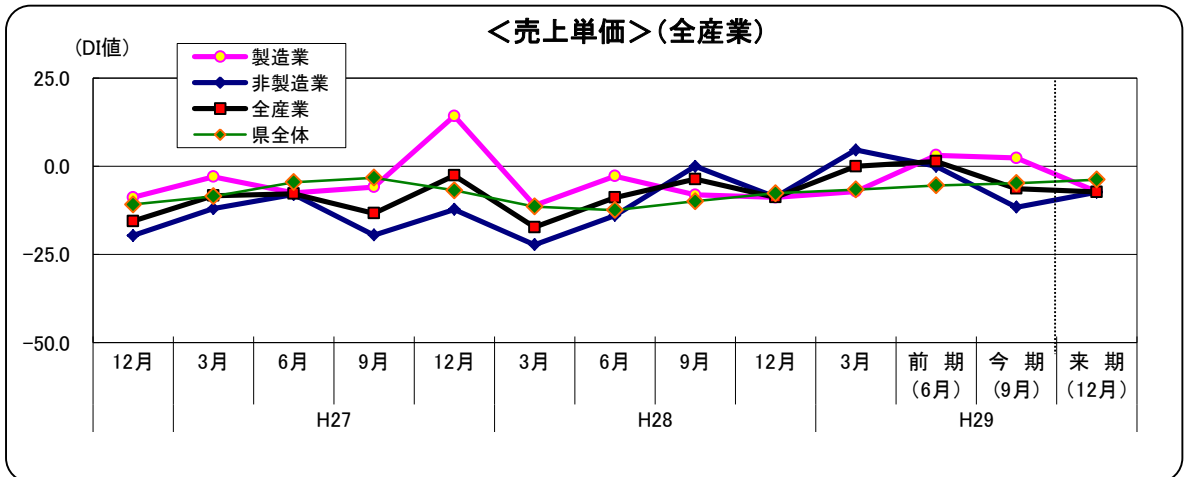
	製造業				非製造業					全産業	県内
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計		
来期	23.5	▲ 9.1	▲ 21.4	0.0	▲ 4.0	▲ 37.5	12.5	0.0	▲ 4.4	▲ 2.7	0.7
今期	29.4	▲ 36.4	28.6	11.9	0.0	▲ 50.0	25.0	▲ 14.8	▲ 8.7	▲ 0.9	▲ 2.4
前期	42.9	11.1	22.2	28.1	▲ 33.3	0.0	40.0	▲ 5.6	▲ 5.3	10.0	▲ 4.9



(3) 売上単価

(単位:DI)

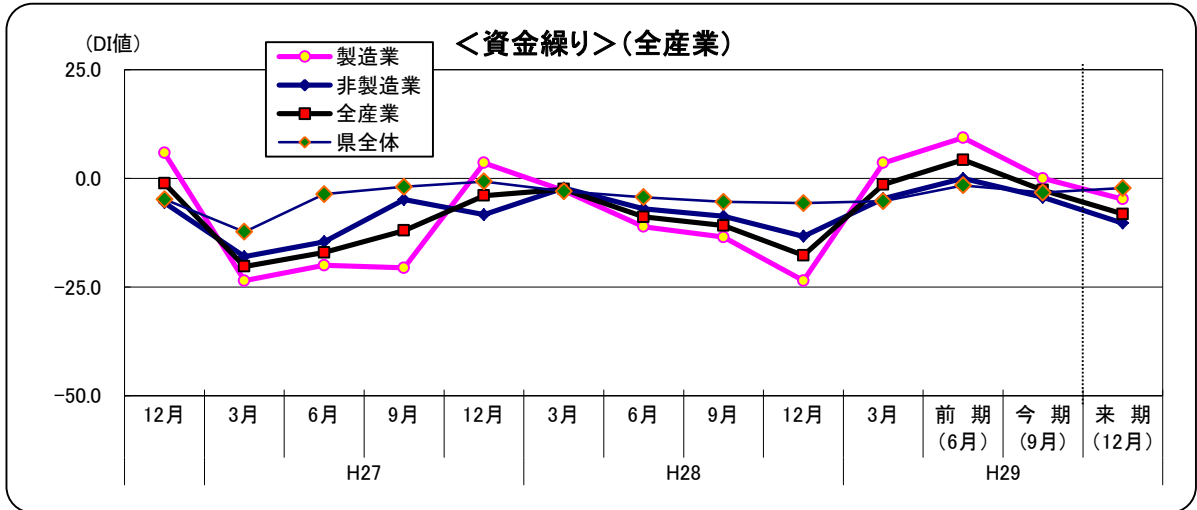
	製造業				非製造業					全産業	県内
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計		
来期	▲ 5.9	0.0	▲ 14.3	▲ 7.1	▲ 4.0	0.0	▲ 25.0	▲ 7.4	▲ 7.4	▲ 7.3	▲ 3.8
今期	0.0	9.1	0.0	2.4	▲ 11.5	12.5	▲ 12.5	▲ 18.5	▲ 11.6	▲ 6.3	▲ 4.8
前期	7.1	22.2	▲ 22.2	3.1	11.1	0.0	20.0	▲ 11.1	0.0	1.4	▲ 5.4



(4) 資金繰り

(単位:DI)

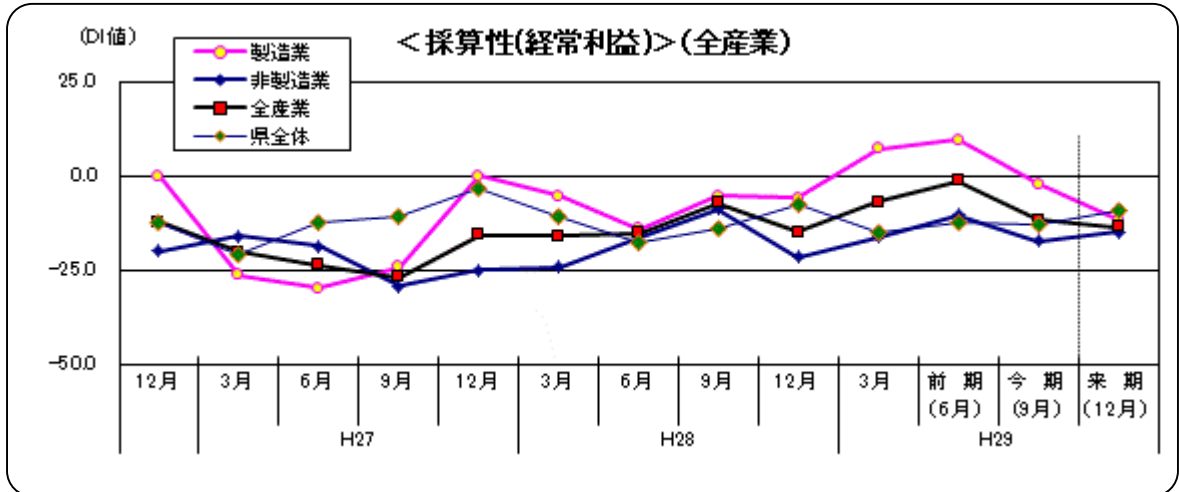
	製造業				非製造業					全産業	県内
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計		
来期	5.9	▲ 9.1	▲ 14.3	▲ 4.8	▲ 8.0	▲ 25.0	12.5	▲ 14.8	▲ 10.3	▲ 8.2	▲ 2.2
今期	5.9	0.0	▲ 7.1	0.0	▲ 7.7	▲ 12.5	12.5	▲ 3.7	▲ 4.3	▲ 2.7	▲ 3.2
前期	28.6	▲ 22.2	11.1	9.4	▲ 11.1	▲ 16.7	20.0	5.6	0.0	4.3	▲ 1.6



(5) 採算性(経常利益)

(単位: DI)

	製造業				非製造業					全産業	県内
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計		
来期	▲ 5.9	▲ 9.1	▲ 21.4	▲ 11.9	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 11.1	▲ 14.9	▲ 13.8	▲ 9.4
今期	11.8	▲ 27.3	0.0	▲ 2.4	▲ 19.2	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 11.1	▲ 17.4	▲ 11.7	▲ 13.2
前期	28.6	▲ 11.1	0.0	9.4	▲ 33.3	▲ 33.3	20.0	0.0	▲ 10.5	▲ 1.4	▲ 12.4

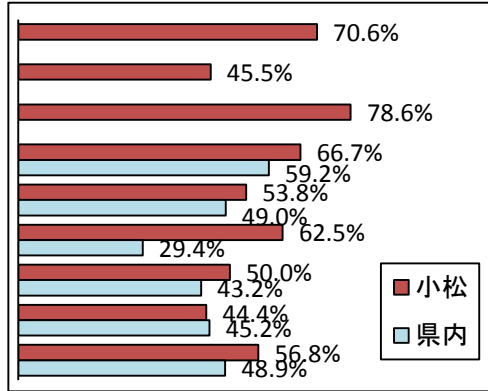


設備投資の動向

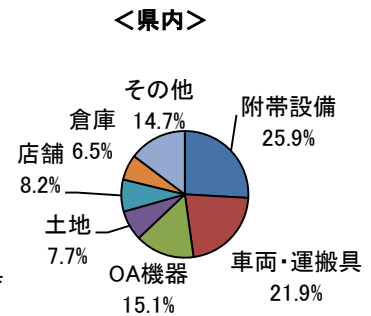
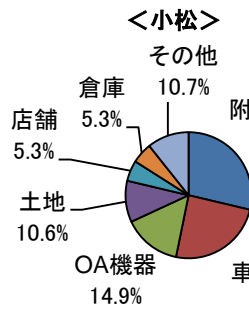
(1) 今年度前半(平成 29 年 4 月～29 年 9 月の6ヶ月)に設備投資を

	実施した		
	小松	県内	
鉄工・機械	12 社	70.6%	
繊維	5 社	45.5%	
その他製造	11 社	78.6%	
製造業	28 社	66.7%	59.2%
建設業	14 社	53.8%	49.0%
小売業	5 社	62.5%	29.4%
卸売業	4 社	50.0%	43.2%
サービス業(運輸含む)	12 社	44.4%	45.2%
全体	63 社	56.8%	48.9%

<業種ごとの実施した会社の比率>



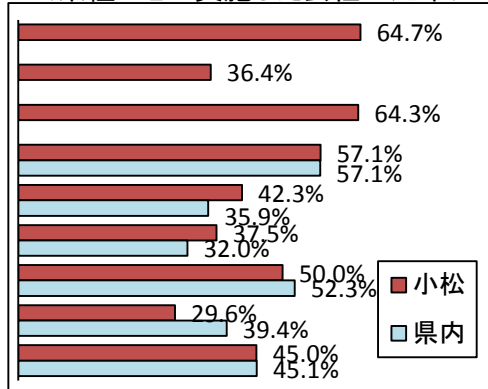
	小松	県内
附帯設備	28.7%	25.9%
車両・運搬具	24.5%	21.9%
OA 機器	14.9%	15.1%
土地	10.6%	7.7%
店舗	5.3%	8.2%
倉庫	5.3%	6.5%
その他	10.7%	14.7%



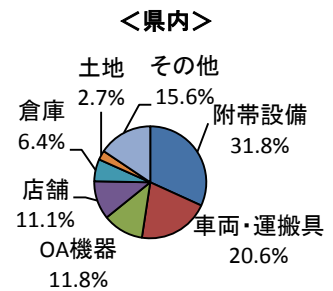
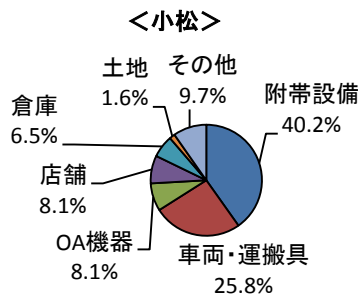
(2) 今年度後半(平成 29 年 10 月～30 年 3 月の6ヶ月)に設備投資を

	計画している		
	小松	県内	
鉄工・機械	11 社	64.7%	
繊維	4 社	36.4%	
その他製造	9 社	64.3%	
製造業	24 社	57.1%	57.1%
建設業	11 社	42.3%	35.9%
小売業	3 社	37.5%	32.0%
卸売業	4 社	50.0%	52.3%
サービス業(運輸含む)	8 社	29.6%	39.4%
全体	50 社	45.0%	45.1%

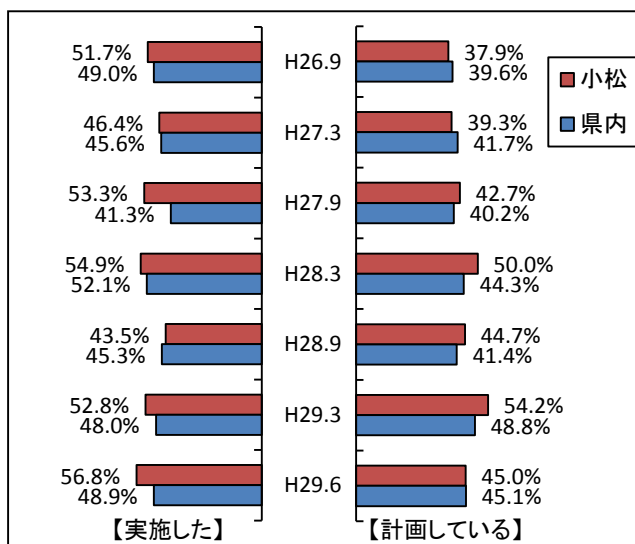
<業種ごとの実施した会社の比率>



	小松	県内
附帯設備	40.2%	31.8%
車両・運搬具	25.8%	20.6%
OA 機器	8.1%	11.8%
店舗	8.1%	11.1%
倉庫	6.5%	6.4%
土地	1.6%	2.7%
その他	9.7%	15.6%



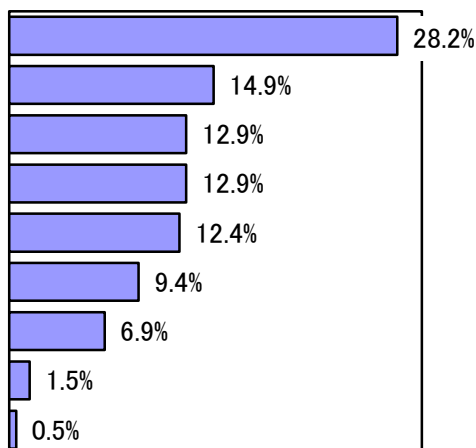
		小松	県内
実施した	H26.9	51.7%	49.0%
	H27.3	46.4%	45.6%
	H27.9	53.3%	41.3%
	H28.3	54.9%	52.1%
	H28.9	43.5%	45.3%
	H29.3	52.8%	48.0%
計画している	H26.9	37.9%	39.6%
	H27.3	39.3%	41.7%
	H27.9	42.7%	40.2%
	H28.3	50.0%	44.3%
	H28.9	44.7%	41.4%
	H29.3	54.2%	48.8%
H29.9	45.0%	45.1%	



今期(第2四半期)直面している経営上の問題点(複数回答可)

	鉄工・機械	繊維	その他	建設業	小売業	卸売業	サービス業
競争の激化	3.6%	0.0%	5.0%	14.3%	21.1%	23.5%	17.6%
仕入単価の上昇	7.1%	16.7%	20.0%	10.2%	10.5%	23.5%	11.8%
経費の増加	21.4%	22.2%	25.0%	16.3%	15.8%	0.0%	7.8%
販売単価の低下・上昇難	10.7%	5.6%	5.0%	10.2%	0.0%	11.9%	13.7%
金利負担の増加	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
事業資金の借入難	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
需要の停滞、売上の減少	3.6%	22.2%	10.0%	10.2%	15.8%	17.6%	13.7%
従業員の確保難	46.5%	11.1%	25.0%	32.8%	31.5%	17.6%	23.6%
後継者の育成・確保	7.1%	22.2%	5.0%	2.0%	5.3%	5.9%	7.8%
その他	0.0%	0.0%	5.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%

	小松	県内
従業員の確保難	57社	28.2%
経費の増加	30社	14.9%
仕入単価の上昇	26社	12.9%
大企業の進出や過当競争による競争の激化	26社	12.9%
需要の停滞、売上の減少	25社	12.4%
販売単価の低下・上昇難	19社	9.4%
後継者の育成・確保	14社	6.9%
その他	3社	1.5%
事業資金の借入難	1社	0.5%
金利負担の増加	1社	0.5%



Q「経営上の問題点」の項目における「10. その他」の意見

受注不安定（製造業）
若手が育たない（建設業）
金利水準の低下（サービス業）

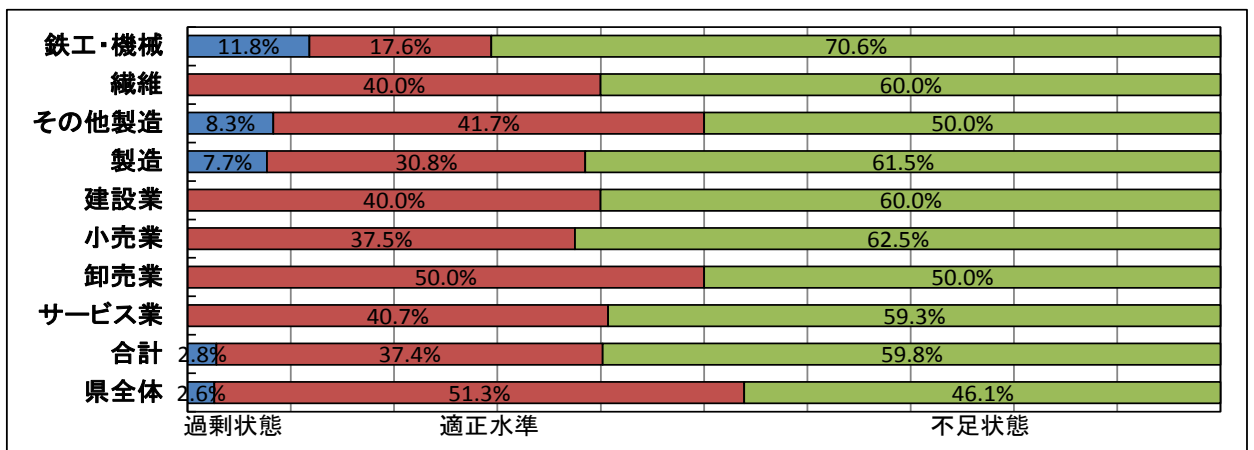
Q具体的な問題点

従業員の補充が困難（製造業）
受注増→人員増員→人材派遣(派遣費、変動費)増→収益圧迫（製造業）
職人の高齢化で次の世代の育成が必要である（製造業）
定着率が悪い（製造業）
慢性的人手不足（製造業）
定年(再雇用者)の補充が困難である（製造業）
材料が値上がりしている（製造業）
欠員補充が出来ておらず、派遣社員での対応となっている(経費増)。納入車両のレンタル延長、外注費増加とすべての経費が大きくなっている（製造業）
観光バス受注減のため、人員の削減、時間外労働削減（製造業）
人材難、仕入価格の上昇（製造業）
経費負担が多くなり、社内的節減を開始した（製造業）
固定費の増加（製造業）
顧客要求に基づく管理工数、経費の増加、人材不足による従業員確保難（製造業）
新築家屋の低価格志向、洋風建築増加により、瓦が屋根材に使用される事が減少している。操業調整、原価削減等に取り組む（製造業）
海外マーケットへの拡販、新規取組先の開拓（製造業）
競合各社との競争激化（製造業）
新規客の獲得は大変難しいので、既存ユーザーとの接点を強化しリピートしてもらいたい(製造業)
県内外の企業の小松市への進出激化（建設業）
リース単価が上昇しない（建設業）
業界全体に若手不足（建設業）
技術者不足（建設業）
評価仕組作りや残業等で経費(コスト)がUPしている（小売業）
経営理念の確立、成文化（小売業）
人件費の労務構成の変更(派遣→パート)求人募集ツールの拡大（小売業）
従業員不足による事業継承の難しさ、現在の従業員の高齢化、定年（小売業）
ネット通販で、小売業のお客様の状態が悪い（小売・卸売業）
現在、枝肉価格が高騰しており、如何ともし難い（卸売業）
従来の競合社の攻勢だけでなく、競合がマルチ化している（卸売業）
人手不足、対応策特になし、何とかやっている（サービス業）
ドライバー不足による求人難、外注単位上昇（サービス業）
人材確保が難（サービス業）
本社総務との接触（サービス業）
経費削減及び営業マンの補充(配置転換)による売上確保（サービス業）
長時間労働の職種であり、敬遠されている様である（サービス業）
全国大手の安売りが問題。飲み放題など（サービス業）
自社の強みを強化していく（サービス業）
業務内容を変更できないため、必要な時間を減らせない（サービス業）

雇用情勢

1. 現在の雇用状況については、どの状態ですか。

	過剰状態		適正水準		不足状態	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内
鉄工・機械	11.8%		17.6%		70.6%	
繊維	0.0%		40.0%		60.0%	
その他製造	8.3%		41.7%		50.0%	
製造業	7.7%	5.2%	30.8%	47.7%	61.5%	47.1%
建設業	0.0%	1.0%	40.0%	46.2%	60.0%	52.9%
小売業	0.0%	3.9%	37.5%	58.8%	62.5%	37.3%
卸売業	0.0%	0.0%	50.0%	68.2%	50.0%	31.8%
サービス業(運輸含む)	0.0%	1.0%	40.7%	51.0%	59.3%	48.1%
全体	2.8%	2.6%	37.4%	51.3%	59.8%	46.1%



Q「雇用状況」の項目における「①過剰状態」・「③不足状態」の状況と対応策

①過剰状態の「状況」

現状(9.10月)はバス需要減に伴い、人員余剰状態、11月以降からは適正見込む(製造業)

売上予測に対する人員が過剰の状態(製造業)

一時的ではあるが、バスの受注減(製造業)

過剰状態の「対応策」

余剰人員→株主、近隣への応援派遣を検討(製造業)

新規顧客獲得、既存顧客の新規注文獲得のための営業活動(製造業)

残業代の抑制、派遣社員の契約解除(製造業)

③不足状態の「状況」

残業の増加(製造業)

物量変動に対応するための派遣社員が不足(製造業)

慢性的な人材不足(製造業)

昨年12月より安定所に依頼しているが、面接すらない(製造業)

熱処理一基導入に伴い、中途募集しているが集まらない(3人中1名のみ)(製造業)

定年退職者の後任を募集しているが、応募すらない（製造業）
仕事の量に対して人数は不足している(充足したが未だ不足)（製造業）
若い人は続かない。定着しない（製造業）
中途退職者による欠員（製造業）
中国人労働者を採用している（製造業）
人手不足感はあるが、人員のやりくりにて何とか対応（製造業）
1～2人不足しており、確保が困難（製造業）
外部下請に頼っている（建設業）
現場の管理者、作業者ともに不足しており、特にスキル・経験のある社員の負荷が高い（建設業）
退職者増、受注量の減少でバランスを保っている（建設業）
慢性的な技術者不足状態（建設業）
新幹線工事等もあり、受注増加による人手不足（建設業）
仕事内容が専門分野なので技術職人の確保が困難だ（建設業）
若年層がいない（建設業）
求人しても人が集まらない（建設業）
中途募集してもこない（小売業）
社員の高齢化に伴う勤務時間の短縮により、更に人手不足に陥っている（小売業）
派遣社員の占める割合の増大（小売業）
新入社員が全くいない（小売業）
アルバイトスタッフの退社が続き、入社がない人材不足状態（小売業）
早朝から仕事のため、若手が入社して来ない（卸売業）
募集をかけても来ない（卸売業）
季節雇用社員が少ない（卸売業）
慢性的な不足状態（卸売業）
増設のため、予定増員不足（製造業）
補充人員の確保（サービス業）
若年層の当業種への希望がない。過当競争（サービス業）
離職者があるため、不足状態が続いている（サービス業）
一般職が不足している（サービス業）
大型免許を所有する運転手が不足している（サービス業）
トラック乗務員2名不足（サービス業）
バス運転手の不足（サービス業）
法律の改正で業務量は増えるが収入に繋がらない（サービス業）

不足状態」の「対応策」

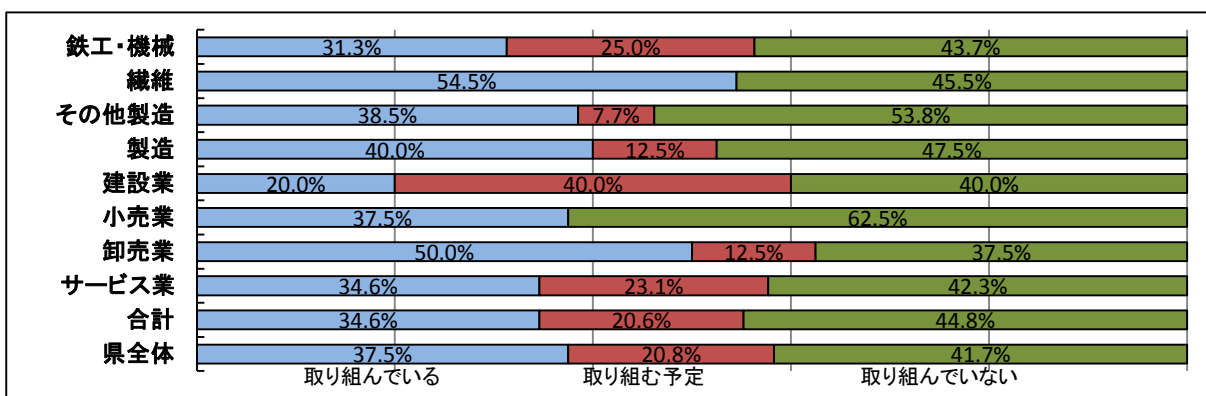
ハローワーク、人材派遣会社に求人を出している（製造業)(サービス業)
ハローワークへの求人、新入社員の採用（製造業）
人材確保の為、安定所を始め各方面に働きかけをしている（製造業）
ハローワーク以外の手法の拡充（製造業）
ひき続き補充する(採用手法を活用して)（製造業）
派遣社員で対応している（製造業）
社員の知り合いや親戚にも声を掛けてもらっている（製造業)(サービス業)
中国人の実習生を入れる（製造業）
外国人研修生等で考えてみる(製造業)
中途採用と人材派遣増員（製造業）

在庫増で対応（製造業）
新卒の採用（建設業）
常に、ハローワークなどには募集をかけ、福利厚生充実を量る（建設業）
積極的な採用活動の展開、人材育成の強化（建設業）
外国人雇用もしくは、仕事がない地区に出向き雇用者確保（建設業）
求人募集の新たなルートの開拓（建設業）
途中採用、新卒者募集（建設業）
OJTによる教育の実施（建設業）
打開策が見当たらない（建設業）
教えてほしい（建設業）
求人媒体をフルに活用し、求人活動の推進（小売業）
新卒中心の募集に切り替えた（小売業）
SNS、募集看板等による広告、賃金ベースを高くして募集するか（小売業）
事業の縮小化しかないと思う（小売業）
採用の強化（卸売業）
派遣社員等の採用検討が必要（サービス業）
求人誌に掲載（サービス業）
受注調整の考え方が必要(特に小松市)（サービス業）
免許取得補助制度の実施（サービス業）
事業継承のための業務を増やすこと(製造業)

事業承継について

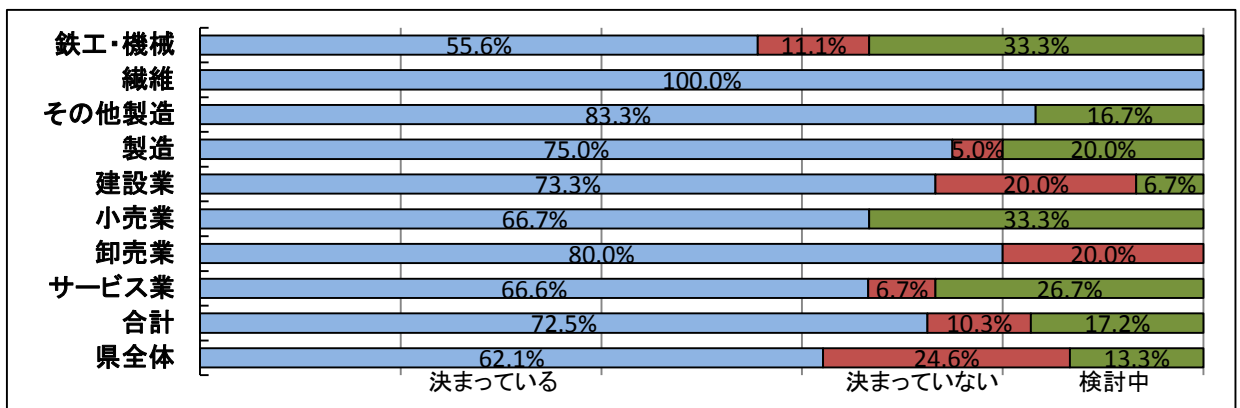
①「事業承継」の取り組み

	取り組んでいる		取り組む予定		取り組んでいない	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内
鉄工・機械	31.3%		25.0%		43.7%	
繊維	54.5%		0.0%		45.5%	
その他製造	38.5%		7.7%		53.8%	
製造業	40.0%	46.1%	12.5%	15.8%	47.5%	38.2%
建設業	20.0%	30.5%	40.0%	31.4%	40.0%	38.1%
小売業	37.5%	32.0%	0.0%	28.0%	62.5%	40.0%
卸売業	50.0%	48.8%	12.5%	9.3%	37.5%	41.9%
サービス業(運輸含む)	34.6%	29.7%	23.1%	18.8%	42.3%	51.5%
全体	34.6%	37.5%	20.6%	20.8%	44.8%	41.7%



②- I 「後継者」について

	決まっている		決まっていない		検討中	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内
鉄工・機械	55.6%		11.1%		33.3%	
繊維	100.0%		0.0%		0.0%	
その他製造	83.3%		0.0%		16.7%	
製造業	75.0%	64.8%	5.0%	21.0%	20.0%	14.3%
建設業	73.3%	59.0%	20.0%	29.5%	6.7%	11.5%
小売業	66.7%	60.6%	0.0%	27.3%	33.3%	12.1%
卸売業	80.0%	80.8%	20.0%	7.7%	0.0%	11.5%
サービス業(運輸含む)	66.6%	54.2%	6.7%	30.5%	26.7%	15.3%
全体	72.5%	62.1%	10.3%	24.6%	17.2%	13.3%



②- II 後継者の属性について

	親族の役員・従業員		親族以外の役員・従業員		親族以外の第三者	
	小松	県内	小松	県内	小松	県内
鉄工・機械	100.0%		0.0%		0.0%	
繊維	100.0%		0.0%		0.0%	
その他製造	100.0%		0.0%		0.0%	
製造業	100.0%	91.7%	0.0%	2.8%	0.0%	5.6%
建設業	100.0%	82.0%	0.0%	16.0%	0.0%	2.0%
小売業	100.0%	87.5%	0.0%	4.2%	0.0%	8.3%
卸売業	100.0%	86.4%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%
サービス業(運輸含む)	90.9%	88.2%	9.1%	5.9%	0.0%	5.9%
全体	97.6%	87.6%	2.4%	7.9%	0.0%	4.5%

③「事業承継」の際に生じるとされる問題

	小松		県内
後継者を補佐する人材の確保	47社	23.2%	21.6%
後継者の選定と、本人や関係者の了承	27社	13.3%	12.1%
後継者への事業内容や技術・ノウハウの引き継ぎ	25社	12.3%	12.5%
社内の組織体制の整備	20社	9.9%	13.3%
後継者への段階的な権限の委譲	18社	8.9%	9.5%
後継者の社外での教育・ネットワークづくり	15社	7.4%	6.7%
「事業承継」時にかかる税制等	15社	7.4%	8.4%
引き継ぎ後の事業運営計画の策定	13社	6.4%	5.8%
経営者の個人保証に関する金融機関との折衝	11社	5.4%	5.1%
後継者への取引先(販売等)との関係の引き継ぎ	11社	5.4%	4.8%
その他	1社	0.4%	0.1%

「⑥その他」の意見

事業継承は既に済ませてある（建設業・サービス業）
資格の取得(製造業)

■ 「景気全般」の項目における意見

時間が掛かっても、国内経済の活力を高めることが大事では（製造業）
建機関係、トラック関係は好調、観光バスは減少（製造業）
バス関係は、特需が過ぎて、例年に戻る。他業種は横バイ（製造業）
先が見通しにくくなっている。スピードが早過ぎる（製造業）
アベノミクスにより良くなってきているこの状態を継続してほしい（製造業）
2年連続の最低賃金の大幅値上げで下請企業は、今年苦しくなる（製造業）
景気は悪くない（製造業）
景気は良くなっているが、続くか解らない（製造業）
18年、19年の景気減退、オリンピック後の特需からのリバウンド効果を憂慮している（製造業）
ここ数年来の需要の落ち込みに歯止めがかからない（製造業）
良い処と悪い処がマダラで、全体で云えば小企業が大変（建設業）
景気が悪い（建設業）
悪くはないが、良くもない（小売業）
リピートサイクルが長くなっており、売上減少になりつつある（小売業）
良くなる感じがしない（卸売業）
悪くはないが、業績にもう一つ勢いが無い（卸売業）
製造業中心に緩やかに回復して安定している。円高の影響も少ない（サービス業）
景気良好感がある（サービス業）
足元の景気は良いが、これが何時まで続くのか不透明（サービス業）
イオンができたが、景況感は良くない（サービス業）
会合、接待など、企業の方が少ない（サービス業）
うちでは、夜少ないお客様で景気いいとは言えない（サービス業）

■ 商工会議所へのご意見・ご要望などがございましたら、お聞かせ下さい。

①企業の特性、特長を把握して、他企業との連携やマッチングを研究する（建設業）
②小松市への人材流入、企業誘致などの取組みなどされていたら、知らせてほしい（製造業）
③ネット通販のノウハウを吸収する研修会を希望（小売業）
④所属部会(業界)の活性化、事業推進活動の検討が必要（卸売業）
⑤小企業の事情もわからない最低賃金の値上を、もっと緩やかに国に対してお願いして欲しい (製造業)
⑥人材確保におけるアドバイス・補助等（製造業）
⑦中央資本による進出が多大なのに、一向にこの対策がない。戦国時代の淘汰状況と同じ (サービス業)

会議所コメント：

- ① 本所では、議員・評議員で構成する6つの委員会を設置し各々の所管事項について調査研究及び異業種間交流を行っており、今後の委員会活動にて反映させていただきます。
- ② 本所と行政(県・市)等の関連機関との連携を密にして、収集した情報を提供して参ります。
- ③本所では、会報・HPにて各種セミナー開催並びにご紹介しております。ご活躍頂き貴事業所のビジネス拡大にお役立て下さい。
- ④⑤⑦本所関係部会での議論を踏まえ、中小企業の発展を目的とした適切な取り組み、要望・提言活動を実施して参ります。
- ⑥ハローワーク小松やジョブカフェ石川加賀サテライト等と連携を取りながら、雇用確保に向けた諸事業(インターンシップ等)を実施して参ります。